

ちくしのびと

chikushinobito ㊸

今“輝いている”人・団体を取り上げる「ちくしのびと」。今回は、プロバレーボールのトップリーグチーム「VC長野トライデンツ」に所属する、本市出身の安部 翔大選手を紹介しつゝ、

バレーボールとの出会い、思い出の場所
吉木小学校に通っていたころ、星空観察会をした御笠コミュニティセンターは、安部選手にとって思い出の場所の一つです。筑紫野中学校に入学時の身長は170センチあり、友達に誘われてバレーボール部に入部しました。「団体競技は中学校が初めてだったので戸惑いました。辞めたいと思うときも、周りの支えがあり続けられました」といいます。



▲昨年より、アタックやブロックの総得点が倍に

大きな怪我、自分に向き合う高校時代

中学卒業時には190センチ近くあり、スカウトされたバレーボール強豪校の中から、憧れの東福岡高校を選び進学しました。1年生で出場した春の高校バレーで優勝し、連覇をめざした2年生の試合直前、アキレス腱を断裂。1年半、試合に出場できませんでした。

「チームの仲間や監督、なにより両親が支えてくれたので、バレーボールへの気持ちが出切れることはありませんでした。高校時代、戦術を学び体づくりに集中することができたので、今があると感じています」と当時を振り返ります。



▲「バレーボールに興味を持ってもらえたらうれしい」と安部選手

瞬時の判断で勝敗が決まる、トップリーグの戦い

安部選手が所属しているVC長野トライデンツは、プロバレーボールの上位チームのみで争われるSVリーグに参戦中です。アタックもブロックもするミドルブロッカーとして活躍しています。「アタックしてくる選手の特徴や、トスボールの高さと速さ、他の選手の動きなども考えて、瞬時に判断しています。観戦するときは、ボールの動きだけでなく選手の動きにも注目すると、より楽しんでもらえます」



▲懐かしい御笠コミュニティセンターの大研修室で

子どもたちにメッセージ

「スポーツでも勉強でも、やりたいと思ったことにチャレンジして、それをあきらめず続けることが一番大事。続けていけば、チャンスが巡ってきて、力を発揮することができると思います」

続けられるよう支えてくれた人への感謝の気持ちを胸に、来シーズンの活躍を誓います。